



# 只見の民具は「地域の宝」

▲ 現在、収蔵庫に分類ごとに整理され保管されている民具

6月、只見町は雄大な自然とそれをよりどころにした人々の暮らしや文化が評価され「ユネスコエコパーク」に登録されました。只見町の雄大な「自然」は家の周りを見渡すだけで感じると思いますが、今回は普段の生活ではなかなか感じられない只見の文化「民具」についてとりあげてみたいと思います。

そもそも

「民具」って何だろう？

今は生活に必要なものはお店に行けば買えますが、昔はお店も少なく衣・食・住や農業など生活に必要なものはほとんどを自分で手作りをしました。民具とは人々が生活の必要性から製作し、使用された用具の事で、一般的には機械によって大量生産された製品は除かれます。

只見の民具は

「国重要有形民俗文化財」

只見町の民具2333点は「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」として平成15年に国重要有形民俗文化財に指定されています。国重要有形民俗文化財は、国が衣服や器具など有形の民俗文化財のうち、特に重要なものを指定するもので、只見の民具は国から重要なものであると認められているのです。

只見の民具収集

只見町の民具は昭和40年代から収集をはじめ、現在その数は1万点を超えました。収集した民具は、民具を使っていた人や作った町民が一点一点清掃し、写真を撮り、民具の情報を整理カードにまとめる作業を行い、この方法は「只見方式」として有名になりました。



▲ 現在も収集・整理を行っています

# — 民具を伝承・活用する人材を育てる — 人材育成ダイヤモンドプラン事業

民具には暮らしの知恵と技術が集約されていて、只見の民具は文化遺産として多くの活用が期待されますが、民具を実際に使用したり作ったりした世代も高齢となつていきます。ダイヤモンドプラン事業では只見の自然とともに育まれた知恵と技を後世に伝える人材を育成します。



▲「只見の民具収集の歴史」を熱心に聞く受講生

6月23日に第1回目となる講座を只見振興センターで行いました。この講座に参加する9名の受講生には、2年間只見の民具について学んでいただき、現在計画が進行している「民具収蔵展示施設」で将来的には民具の実演や解説、体験活動などをしていただく施設のサポーターになっていただく予定となっております。

受講生は開講式で「民具を使った事が無く、以前から使ってみたかと思っていた」「現在、収蔵庫に保管されているだけの民具がもったいないと思う。この講座で勉強をして只見の民具を有効活用できるようにしたい」など意気込みを話されました。

## 〈第6期生が取り組む講座の内容〉

平成26年度	講座内容
第1回	・開講式 ・講演「只見の民具収集の歴史」
第2回	・講演「只見の民具の魅力」
第3回	・只見方式を学ぶ1 「民具保存活用運動と民具カード」
第4回	・只見方式を学ぶ2 「仕事着の仕分けの実際に挑戦」
第5回	・視察研修 民具活用先進事例
第6回	・ユネスコエコパーク関連講演会 「エコパーク関連事業等の取り組み」「只見の民具の今後」
第7回	・松下政経塾宿泊研修(神奈川県)
平成27年度	受講生が主体となり講座内容を構成

## 新たな「民具収蔵展示施設」の整備

現在1万点を超える民具のほとんどは、収蔵庫(旧朝日公民館)で管理・保管をしていますが、こんな貴重な只見の民具は人の目に触れる事もほとんどなく保管されているだけになっています。この只見の民具の有効活用を図ることを目的に、将来的には民具の展示館を建設する予定です。展示館の建設には、今後町民の皆さんからもご意見を頂きたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いします。



▲ 現在民具が管理・保管されている収蔵庫